

総 論

満 点	120 点	目標得点	90 点	試験時間	90 分
偏差値	基幹:64 創造-総合機械工:64 環境資源工:63 建築:65 社会環境工:62 経営システム工:62 先進-物理:67 化学・生命化:65 電気・情報生命工:65 応用化:65 応用物理:65 生命医科:67				
大問数	5	小問数	53		
【解答形式】		選択式(記号)	53/53 問	記述式	0/53 問
【問題難易度】		C	6/53 問	B	19/53 問
A 28/53 問					
※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す					

Topics

- 1：リード文も、設問も、選択肢もすべて英語である。
- 2：理工学部らしく、問題の中に簡単な計算を要求するものがある。
- 3：出題形式には若干の変更があるが、出題傾向は例年一貫しており、本年度も大きな違いはない。

こんな力が求められる！

本学部の出題内容を大きく3つに分けると、①思考力、分析力を試す問題、②文法、語法の知識を問う問題、③語彙を問う問題、となる。このうち③にはかなり細かい単語の知識を聞く問題もあるが(大問Ⅴ)、全体の中でのウェイトは大きくない。②もかなり難しい設問はある(大問Ⅲ)が、これが合否を分けるとも思われない。もっとも比重が大きいのは①である。日ごろから、考えながら英文を読む訓練をつむ必要がある。また、英文の理解の上に、論理的思考を試す問題も多い。たとえば、「以下の記述がすべて真理であると仮定して、英文の内容ともっとも矛盾するもの」を選ばせる問題は、問題文も選択肢もすべて英語であるために、通常解きなれている内容正誤問題と勘違いする受験生もいたと思われる。問題文もしっかり読んで出題の意図をきちんと把握する姿勢が必要である。

さて、上記を踏まえて言えば、上に述べた①②の問題については、お茶ゼミの Advanced 英語クラスの教材をしっかりとマスターすれば対策としては十分と言えるし、OS 英語クラスの教材ならばお釣りがくるだろう。また③についてもお茶ゼミの『でか単』PART 3 で対策としては十分である。長文読解対策だけで言えば Part 2 まででも大丈夫だろう。Topics の 3 でも触れたように、傾向は安定しているので、過去問の演習も怠りなく。

参考図書

雑誌 “Nature” “Nature Digest”

大問別分析

【I】

予想配点	35 / 120 点 (小問 1～10 は各 2 点、11～15 は各 3 点)	時間配分の目安	20～30 / 90 分
出題内容	長文読解問題 [Word 数] 420 語。 (ただし、設問の英文も比較的長く、トータルすると 1000 語を超える。) 『でか単』『完熟』レベル) 『でか単』『完熟』共に PART 2 までマスターしていれば問題ない。 [長文テーマ] ヒトの基本的欲求とそれに対応するための段階的学習		
出題形式	英問英答選択記号式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1. B 2. B 3. B 4. A 5. A 6. A 7. B 8. B 9. A 10. A 11. B 12. A 13. A 14. A 15. B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	お茶ゼミ Advanced 英語クラス、OS 英語クラスの教材に必要な学力はすべて整う。ただし、授業以外に多くの英文を読む訓練は各自でやる必要はある。『でか単』および『完熟』は PART 2 まででよい。人によっては、中にやや難しいと感じる単語はあるかもしれないが、文脈から推測できるし、問題を解くには影響がない。		

●解答のポイント&学習対策等

本文の内容は「ヒトの基本的欲求とそれに対応するための段階的学習」についてである。「空腹」を例に挙げて、対応の段階を 3 つに分けて説明している。

第 1 段階 空腹を感じるがそれに対してどういう行動をとればよいかは分からない。

第 2 段階 空腹を感じたときの確な対応ができるようになる。

第 3 段階 空腹感以外の刺激に対しても食欲を感じるようになる。

以上のことがきちんと読み取れていれば、小問の 1～10 は解答できる。さらに 11～15 は、本文の英文とは別の英文を読ませて、本文の理解を土台にした論理的思考を要求する問題である。通常の内容正誤問題とは違う形式で特徴的である。

いずれの問題についても注意を要するのは、設問文をしっかり読む必要があるという点である。日ごろの模試の問題に慣れすぎている人は、即断して設問をろくに読まない恐れがあるが、致命傷になるだろう。

【II】

予想配点	20 / 120 点 (小問 1～6 は各 2 点、7・8 は各 3 点)	時間配分の目安	20 / 90 分
出題内容	長文読解問題 [Word 数] 約 240 語。 『でか単』『完熟』レベル) 『でか単』『完熟』共に PART 2 まででよい。 [長文テーマ] Section A: 「ラクダの生態」 Section B: 「人類学について」		
出題形式	英問英答選択記号式 Section A: ラクダがなぜ砂漠の中で生き延びることができるのかを紹介した読み物の文中に接続詞を入れる問題。 Section B: 自然人類学者と文化人類学者の研究内容を紹介した読み物の文整序と段落整序。		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1. A 2. A 3. A 4. A 5. A 6. A 7. A 8. A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	Section A: 高 3 前期に一度接続詞を集中的に取り上げ、後期に実際の入試問題を使った実戦問題にも触れる。入試直前期には、センター試験対策として本問のような例題を解いているのでこのような出題には慣れてはいるはず。 Section B: 文段落・段落整序問題も基本的な文法・語法の力を問うものであってお茶ゼミのテキスト		

Benesse お茶の水ゼミナール

をみっちりやっておけば問題ない。

●解答のポイント&学習対策等

Section A :

小問1 : 「体が大きいにもかかわらずラクダは砂漠で長い間生きていられる」なのでb. **Despite**が入る。他の選択肢は文脈上入らない。

小問2 : 「熱を遮るための毛深い背中」と「熱をすばやく逃がすためのむきだしの背中以外の部分」の対比なのでc. **while**が入る。

小問3 : 「水分を保存するため、体温が40度に達するまでは汗をかかない」となるのでd. **until**が正解。他の選択肢は文脈上入らない。

小問4 : 一見、4ヶ所の空所を検討しなければならないように思えるが、空欄(4-A)を見ただけで少なくとも選択肢aの**Because**は消すことができる。「高気温においては、必然的に彼らはいくぶん水分を失うが、彼らは生き延びることができる」となる選択肢dが適当であると選べる。更に(4-B)の**even when**が決め手となり(「体重の4分の1に相当するだけの水を失った時でさえ生き延びることができる」となり自然)、選択肢dが正解となる。

小問5 : (5-A)のみで、“as most mammals do” 「ほとんどの哺乳類がそうしているように」で直感で選べた人も多かったかもしれない。(5-A)の時点では、cの**when**は明らかにおかしいので消し、(5-B)で「ラクダは皮下脂肪をたくわえていない。なぜなら、これ(皮下脂肪をためること)は熱が逃げるのを妨げるからだ」という文脈になるのを決め手とし、選択肢aを選ぶ。

小問6 : 自然な代名詞を選ぶ問題。時間をとられずに確実に得点したい。

Section A全体についての学習対策：普段から、接続詞により導かれる論理関係を正確にとらえながら文を読んでいくように心がけることが、Section Aの学習対策につながるだろう。具体的な類題としては、平成18年以前のセンター試験第3問Aなどが挙げられる。

Section B :

全体について：文整序、段落整序の問題は、「初出の情報には代名詞は用いず、定冠詞は付かない」というルールに着目して解く。

小問7 : 文(1)中に“the practice” 「その習慣」とあるので、(1)は1番目ではありえない。この時点で選択肢aとbを消す。同様に、文(2)中の“they”は文(3)中にある“cultural anthropologists” 「文化人類学者」を指しているのので文(3)は文(2)に先行すると考えられる。文(4)では、「耳たぶに大きなピアスをするグループがある」という例示で、文(1)へ続く「習慣」の紹介である。文(6)の**rather**や文(5)の**also**も、順序を決める目安となる。以上を加味し、選択肢cを確実に選びたい。

小問8 : 小問7で出来た段落[A]は、cultural anthropology についての記述であった。段落[B]は anthropology という学問についての説明で、全体の導入と考えられる。段落[C]で、anthropologists には大きく分けて2つあるとあり(physical anthropologists と cultural anthropologists)、続いて physical anthropologists についての説明となっている。文脈上この直後に cultural anthropologists についての説明(段落[A])がくるのが最も自然であり、選択肢 a が正解となる。

【Ⅲ】

予想配点	20 / 120点 (各4点)	時間配分の目安	10 / 90分
出題内容	英文読解&文法&語彙 〔Word数〕253語。 〔『でか単』『完熟』レベル〕『でか単』『完熟』共にPART2まででよい。		

Benesse® お茶の水ゼミナール

〔長文テーマ〕脳細胞の性質	
出題形式 語句整序選択記号式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1. B 2. B 3. B 4. A 5. B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 語句整序問題は文法学習の一環として全クラスの平常授業の中で十分な練習機会を与えられている。	

●解答のポイント&学習対策等

長文の各所に配された語句整序問題。今年はダミーの語句がなくなったが、必ずカッコの前後とのつながりを踏まえなければならないので、やや時間がかかると思われる。解答の選択肢を参考にして、行き詰まるのを避けたい。【IV】との難易度差（【IV】の方が圧倒的に易しい）をかんがみて、解答を後回しにすることも考慮に入れるべきである。本問はやや難しい面もあるので時間をかけすぎるのは得策ではない。時間配分の目安が10分となっているのはそういう趣旨である。

- (1) as を先頭に来る接続詞と考えると、少してこざる恐れがある。「～として」という意味で考えなおすまでにどのくらいかかるかが勝負。A is held as B 「AはBだと考えられる」という組み立てが、熟語として見覚えがなくても、思いつくことのできる地力が必要である。
- (2) in place of ～「～の代わりに」が思い浮かぶにちがいないが、実際は in place 「適当なところに」を用いなければならない。of は先頭にもってくる。安直に思いつく熟語はワナかもしれないと勘ぐってみよう。
- (3) (2)にひき続いて of を先頭にもってくるパターン。比較構文を手がかりに後続の more に語句をつなげていく。「人生においてよりも、書物においてはるかに頻繁に生じるたぐいの洞察を〔彼は抱いた〕」という文意から正解にたどり着くのは容易ではないだろう。
- (4) 直前に he があるので、次は動詞が来るだろうという推測がきく易問。
- (5) that を(3)の関係代名詞用法に惑わされず、主語として据えられるかどうか。some や not の位置についても迷うかもしれないが、解答の選択肢がヒントになる。

【IV】

予想配点 25 / 120 点 (小問1～5は各3点、6～10は各2点)	時間配分の目安 20 / 90 分
出題内容 短い英文を与えて、選択肢との論理関係を考えさせる問題。	
出題形式 SectionA：英問英答選択記号式 SectionB：空所補充選択記号式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1. B 2. A 3. A 4. A 5. A 6. B 7. A 8. A 9. A 10. A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 平常授業テキストに掲載されている様々な出題形式に取り組んでいけば、十分対応できる設問。	

●解答のポイント&学習対策等

IVは、SectionA・SectionBともに論理的な思考を問う設問であり、理系に進学する受験生を強く意識した構成となっている。ただし、与えられた条件を読み取っていけば素直に解答できる問題ばかりであり難しくない。本学部への合格を目指す受験生は、確実に高得点を獲得したい部分である。

SectionAは、短文を読んでそこから論理的に正しい（もしくは、正しくない）選択肢を選ぶ問題である。使われている単語・表現などは平易なものばかりなので、正確に読み取って当てはめていけばよい。SectionBは、表に書かれた数字と本文の解説を元に、簡単な計算が必要な問題が含まれている。本文と表の中に例が書かれているので、どのような計算をすればよいかは例を利用すれば理解しやすい。

いずれも、本学部特有の出題形式といえるので、過去問題演習が有効である。制限時間を意識した演

Benesse® お茶の水ゼミナール

習を行い、求められる考え方に慣れておくとよいだろう。

【V】

予想配点	20 / 120 点 (Section Aは各2点、Section B・Cは各1点)	時間配分の目安	10 / 90 分					
出題内容	文法&語彙							
出題形式	SectionA：共通語補充 SectionB：共通語補充 SectionC：空欄補充（選択）							
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							
	1. B	2. B	3. B	4. B	5. B	6. A	7. C	8. A
	9. A	10. B	11. C	12. C	13. C	14. C	15. C	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連								
平常授業の Weekly テストでしっかりと単語を覚えておくことが重要。さらに冬期講習の『ボキャブラ完成』を利用すると完璧。								

●解答のポイント&学習対策等

・ Section A

要求されている単語は答えが分かったあとから見れば簡単なものばかりであるが、実際の試験中に思いつかどうかポイント。

要求されている単語の始まりのアルファベットと語数がヒントとして与えられている。始まりの語はヒントとなるが、あまりにも語数に縛られてしまうと逆に発想が制限される。

従って、まず与えられた単語の意味、そして用法から、その要求されている単語の品詞を自分で考えてみて、それがヒントに合致しているかの確認をとったほうが正解に到達しやすい。

今年の問題の2のように **communicate** という単語が正解なのだが、要求された部分は過去分詞形や、名詞形にも共通部分である **communicat** というように、最後の **e** が欠落した形を要求している。語数にこだわっていたら正解に到達できない可能性もある。

自分で考えることが必要であるが、そのためには日ごろの単語学習で、意味だけではなくその用法も確認をすることが必要である。

実際の試験の場合、この問題については自分で思いつかなかった場合は、必要以上に時間をかけることはない。

・ Section B

空欄に入るべき語の選択。まず空欄に入るべき語の品詞を正確に把握することが必要である。今年の問題に関しては7の **group** を入れさせる問題はそれ以外の選択肢に紛らわしいものがあり選びにくかった可能性はあるが、その他の問題については正解を得たい。

・ Section C

選択肢にある単語を知っていることが条件であるが、今回の問題においては選択肢の単語のレベルが高かった。知っていれば正解を短時間で導き出すことができるという意味では是非得点にしたい問題ではあるが、『でか単』を確実に習得することが必要である。

一冊の単語集を習得することによって、自分の単語力が一般の受験生と同じで、自分が知らない単語は受験生の大半の者が知らないという安心感にもつながり、自分だけが知らないのではないかと不要に焦らなくなる。

逆に言えば、自分が知らない単語の選択肢が出てきた場合は、不必要に時間を費やすことをせず、割り切ってその問題を捨てるのも一策である。